NEWS RELEASE

一般社団法人　日本IR協議会
〒101-0047　東京都千代田区内神田1-6-6　MIFビル9階
Tel 03-5259-2676(代表) Fax 03-5259-2677https://www.jira.or.jp

2026 年 11 月 12 日

「ＩＲ優良企業賞２０２６」発表

一般社団法人日本ＩＲ協議会（会長：手代木功 塩野義製薬株式会社代表取締役会長兼社長 CEO）は、このほど「ＩＲ優良企業賞 2026」受賞企業を決定いたしました。

「ＩＲ優良企業賞」（審査委員長：北川哲雄 青山学院大学名誉教授、東京都立大学特任教授）は、ＩＲの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの優れた成果を挙げた企業を選び表彰することを目的としており、今年で 31 回目を迎えます。審査では、主に下記の点を重視して受賞企業を選定いたしました。

- **【成長投資を推進し規律をもって企業価値を向上】** 日本市場に対する投資家の注目が続くなか、成長投資を推進し、規律をもって企業価値の向上を目指す企業を評価する。コーポレートガバナンス改革の進展を背景に、中長期的な成長投資の方向性や経営資源の配分が適切に説明されているか、また情報開示や対話から、株主をはじめとするステークホルダーとの協働が読み取れるかなどを評価する。加速度的に環境が変わっても適切に情報開示を続ける姿勢、投資家との対話を踏まえて自律的に経営戦略をブラッシュアップする取り組みに着目する。
- **【企業価値向上の意識をグループ全体で向上】** 企業価値向上の意識を企業グループ全体で共有し、ＩＲ活動に反映させようとする企業を評価する。ＣＥＯとＩＲ担当役員、ＩＲ部門に加え、事業部門責任者などを含む企業グループ全体の説明力や対話力の強化に着目する。成長投資を含む資本政策の策定や、経営目標達成を可能にするための社内とのコミュニケーション、取締役会と株主・投資家との視点共有や社外取締役との対話促進、ＩＲ部門の位置づけ向上や人材育成など、透明性の高い経営を基盤とした取り組みを評価する。
- **【企業価値・社会価値を結びつけて実現】** 非財務領域に対する投資と企業価値向上との関連を示す取り組みを評価する。気候変動対応や人的資本への投資、女性活躍推進などサステナビリティ関連の取り組みを、投資家の視点で企業価値と結びつけて説明するＩＲ活動などに着目する。社会価値向上についても、ステークホルダーとの協働を定量的な指標や活動例の紹介などを通じて説明・対話する取り組みなどを評価する。
- **【中長期視点の海外投資家と個人投資家の支持獲得】** 日本市場を取り巻く環境変化に関わらず、投資マネーの流れを継続させる力を評価する。個々の企業の力を示す海外投資家向け説明資料や対話機会の拡充、個人投資家に対する説明機会の充実などを通じ、新たな株主層として開拓しようとする取り組みを評価する。
- **【リスクの早期認識と対応】** 地政学リスクや情報セキュリティ問題の拡大などによって、先行きの見通しが難しいなか、リスクの認識を早めに示し、対応していることを示す取り組みを評価する。

北川審査委員長は、「今年度の受賞企業は、いずれも資本市場の関心をとらえ、期待に応えるＩＲ活動を進めています。経営トップは積極的に投資家と対話し、企業価値向上に向けて発信力を高めています。ＩＲ部門も企業価値分析に資する情報開示やイベントを開催し、個人株主づくりにも力をいれています。奨励賞受賞企業も、説明会資料の拡充や投資家の疑問に答えるタイムリーな情報開示に努めています。成長投資の推進などに注目が高まるなか、質の高いＩＲ活動の広がりが期待されます」と語っています。

審査対象は、日本ＩＲ協議会の会員企業のうち株式を公開している企業で、2026 年の応募企業は 359 社となりました。受賞企業はＩＲ優良企業大賞２社、ＩＲ優良企業賞６社、ＩＲ優良企業特別賞３社、ＩＲ優良企業奨励賞２社の 13 社です。受賞企業の主な選定理由とこれまでの受賞歴は、別紙に記載しています。

（各賞社名 50 音順）

ＩＲ優良企業大賞 受賞企業

中外製薬株式会社
株式会社野村総合研究所

ＩＲ優良企業賞 受賞企業

株式会社アドバンテスト
株式会社ＩＮＰＥＸ
ＴＤＫ株式会社
日産化学株式会社
丸紅株式会社
株式会社良品計画

ＩＲ優良企業特別賞 受賞企業

大塚ホールディングス株式会社
株式会社小松製作所（コマツ）
三菱地所株式会社

ＩＲ優良企業奨励賞 受賞企業

大崎電気工業株式会社
高砂熱学工業株式会社

各賞の概要は下記の通りです。

ＩＲ優良企業賞

日本ＩＲ協議会の会員でかつ、株式を公開している企業を対象に、毎年選定・表彰しています。

ＩＲ優良企業大賞

ＩＲ優良企業賞を直近 10 年以内に２回受賞し、３回目も受賞に値すると評価された企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。なお、受賞翌年から２年間は「ＩＲ優良企業賞」の対象から除外されます。

ＩＲ優良企業特別賞

ＩＲ優良企業賞に応募した企業のうち、継続的にＩＲのレベルを高めている、業界のリーダーとしてＩＲに積極的である、個人投資家向けＩＲの評価が高い――など、活動内容に特徴の見られる企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。

ＩＲ優良企業奨励賞

ＩＲ優良企業賞に応募した企業のうち、東証スタンダード市場や東証グロース市場、その他新興市場に上場する企業、また東証プライム市場であっても新規に株式を公開後 10 年目以内の企業、およびＩＲ優良企業賞に初めて応募する企業のうち中小型株企業を主な対象として表彰しています。2002 年より表彰をスタートさせました。

審査方法は３段階で、下記の通りです。

① 応募企業が提出した「調査票」の結果をもとにした第１次審査（298 社が第２次審査へ進出）
② 審査委員のうち、証券アナリスト、機関投資家、ジャーナリストなどの専門委員 12 名がＩＲ優良企業賞審査対象企業 212 社、ＩＲ優良企業奨励賞審査対象企業 86 社を評価する第２次審査
③ 専門委員による第２次審査をもとに、学識経験者、弁護士等も加わった審査委員全員による最終（第３次）審査

「“共感！”ＩＲ賞」を選定いたしました。

“共感！”ＩＲ賞（共感賞）とは、ＩＲ優良企業賞の開催 25 回目を機に 2020 年に新設したものです。ＩＲ優良企業賞に応募した企業の視点を「投票」によって反映させ、積極的なＩＲ活動を共有し、ベストプラクティスの実現を目指すことを目的としています。2026 年は「ＩＲの効率化を高度化につなげるための取り組み」をテーマといたしました。詳細および選定企業につきましては日本ＩＲ協議会ウェブサイト https://www.jira.or.jp をご覧ください。

※本ニュースリリースの英語版は日本ＩＲ協議会ウェブサイトにてご覧いただけます。

問い合わせ先： 一般社団法人日本ＩＲ協議会 事務局
ＴＥＬ：03-5259-2676　　ＦＡＸ：03-5259-2677

日本ＩＲ協議会とは：1993 年設立のＩＲ普及を目的とする非営利団体。会員数は 738（2026 年 10 月 1 日現在）、主な活動はＩＲの研修活動、調査・研究、企業間の交流など。
https://www.jira.or.jp

【別紙】受賞企業の主な選定理由と受賞歴（各賞社名 50 音順）

ＩＲ優良企業大賞 受賞企業

中外製薬

（2023 年・2020 年優良企業賞/2025 年特別賞）

総合的にＩＲのレベルが高く、ＣＥＯ、ＣＦＯは投資家との対話を深めている。成長ストーリーが明確で、2030 年に向けた課題と進捗について連続性をもって伝えている。医薬品企業の価値算定に重要な研究開発プロジェクトの説明に対する評価も高い。マテリアリティやマイルストンの開示などにもオリジナリティが表れている。ＩＲ部門は説明力が高く、多様なイベントを開催している。社外取締役との対話機会の拡充や人的資本開示の充実にも高い評価を得ている。

野村総合研究所

（2023 年・2017 年優良企業賞）

経営トップが投資家と向き合い、真摯に応える姿勢が評価を高めている。ＡＩがもたらす経営環境の変化を早くから認識し、事業機会につなげる経営戦略を説得力をもって打ち出している。ＡＩの進展に伴う業績への影響や、海外事業に対する投資家の懸念に対しても、積極的かつ具体的な数値を伴った説明に努めている。ＩＲ部門に情報が集積されているため説明力が高く、内容も充実している。2026 年に IR Day を初めて開催するなど、ＩＲイベントの幅も広げている。

ＩＲ優良企業賞 受賞企業

アドバンテスト

（2022 年特別賞）

半導体関連産業に対する注目度が高まるなかで、資本市場のニーズに応える活動を進めている。経営層がＩＲに積極的で、技術動向や経営戦略をフランクに語る機会を設けている。ＩＲ部門は、国内外の投資家に向けた決算説明会資料の日英併記や効率的な運営などに取り組んでいる。専門的な技術についての説明や、事業別の市場見通しを四半期ごとに更新することへの評価も高い。多様な関心や疑問に対する情報開示によって、適切な評価を導こうとする姿勢が伝わってくる。

ＩＮＰＥＸ

（初受賞）

経営トップが市場の声に耳を傾け、自ら応えようとする姿勢が明確である。トップが主導的に情報開示と対話の充実を進めており、中東情勢悪化時の迅速な対応も評価を得ている。原油価格変動の影響や業績予想を早期に開示し、中長期のビジョンの説明においては、大型投資に向けた資金調達と還元の考え方などを具体的に語っている。投資家が関心を持っている点にＩＲ部門が対応し、情報発信・対話・社内共有を継続的に改善する姿勢が読み取れる。

ＴＤＫ

（2025 年・2005 年優良企業賞）

経営トップは、ありたい企業像からバックキャストした経営方針を一貫性をもって説明しており、中長期の予想がたてやすい。事業ポートフォリオマネジメント（ROIC 経営）の強化という視点からの進捗説明も評価を得ている。経営層や事業部門責任者が積極的なうえ、ＩＲ部門が適切な開

示や対話機会に向けた役割を果たしているため、コミュニケーションが効果的にとれる。Investor Day などのイベントは、市場の関心を踏まえて企画・開催していることが読み取れる。

日産化学

（2025 年優良企業賞/2024 年特別賞）

事業環境の変化が大きい化学業界で、高いレベルの情報開示を続けている。決算説明会資料が極めて充実しており、業績内容に関する説明力が高い。主要製品ごとの業績予想比や前年同期比の変動要因などの開示に加え、中長期視点でも各事業の状況をわかりやすく説明している。ＣＦＯがＩＲ部門の陣頭指揮を取り、対話を深めて企業価値向上を目指している。ＣＯＯ、事業部門長、研究開発責任者など多様な人材が対話に参加し、自社の強みの解像度向上に取り組んでいる。

丸紅

（2010 年特別賞）

経営トップを中心に、ＩＲ組織・体制を充実させており、強化に向けた意志が伝わってくる。中期経営戦略は、成長ドライバーを明確にし、戦略プラットフォーム型事業を打ち出すことによって解像度が高まっている。従来の枠にとらわれずに価値創造の道筋を示そうとする経営トップに対する評価が高い。初めて開催した IR Day にも注目が集まり、対話の強化が開示の充実につながり、社内フィードバックによって複雑な事業内容の透明性が高まっていることが読み取れる。

良品計画

（2025 年特別賞）

月次実績に関するミーティングや社外取締役との対話、商品展示会や海外店舗見学会などの多彩なＩＲイベントが開催され、投資家の理解を深める機会を拡充している。経営トップは中長期視点で企業価値と社会価値の向上を語り、それが他社との差別化につながっている。ＩＲ部門は投資家のニーズを的確に把握し、適切な情報開示やイベントを実行している。各地で開催する「株主ミーティング」は、個人株主が直接社員と接し理解を深める場として特徴的である。

ＩＲ優良企業特別賞 受賞企業

大塚ホールディングス

（初受賞）

近年、経営層のＩＲ意識が高まり、活動を充実させている。統合報告書においては、ＣＥＯメッセージで成長戦略の要点を示したうえで、成長投資とリターン、キャッシュ創出の進捗などをわかりやすく説明している。説明会の頻度も高まり、大型買収に関する詳細な説明会も設けている。持続的な企業価値向上を目指す経営への理解を深めるために、研究開発に関するデータの開示や戦略の説明にも力を入れている。企業文化の理解を促すイベントなども開催している。

コマツ

（2017・2010 年大賞/2024 年・2020 年優良企業賞/2025 年特別賞）

経営トップが市場と向き合う姿勢が明確で、継続的に情報開示のレベルを高めている。米国関税や中東情勢などのリスクが続く状況においても、できるだけ早い段階で情報を開示し、見通しも示している。投資家の関心を踏まえて情報開示を改善し、業界全体の見通しも示すといった姿勢

への評価も高い。社外取締役との対話機会や現場見学会、IR-Day の定期開催などのイベントも充実させ、中長期的な経営戦略への理解促進に努めている。

三菱地所

（2009 年優良企業賞）

ＩＲ活動を年々改善し、新たな取り組みを進めている。IR Day や物件見学会、社外取締役とのミーティングなどを開催し、積極的な対話姿勢が読み取れる。経営トップは投資家の視点を踏まえ、バランスシートマネジメントの意識を高めて、成長と資本効率の向上を両立させる経営を明言している。長期経営計画ではＲＯＥやＥＰＳ目標を掲げ、非保有アセット事業へのシフトや株主還元強化、開示の充実といった姿勢を打ち出し、資本効率を強く意識した説明を充実させている。

ＩＲ優良企業奨励賞 受賞企業

大崎電気工業

（初受賞）

ＩＲ活動の充実に取り組み、決算説明会資料を中心に内容を向上させている。経営トップが決算説明会で説明し、その内容や質疑応答の要旨などを公表している。決算発表後の面談で投資家などから出された質問への回答もＩＲサイトに掲載しており、開示を対話につなげようとする姿勢が読み取れる。企業価値向上に向けて積極的に情報発信しており、中期経営計画や資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた説明も充実してきている。

高砂熱学工業

（初受賞）

市場から寄せられる関心を踏まえ、ＩＲ活動を充実させている。中東情勢の業績への影響を早めに説明し、リスク認識をもって対応する姿勢は高く評価された。経営トップは決算説明会に登壇し、対話から得た知見をいかしている。一般に業績変動が大きいとみられがちな建設セクターの中で、中長期の成長戦略を示すＩＲ活動にも取り組んでいる。ＩＲ部門は資料や見学会などのイベント、統合報告書の充実に取り組み、積極的に発信している。

以　上